

た ま 多摩ニュータウンと 南 大沢 みなみおおさわ



▲ 南大沢輪舞歩道橋より多摩ニュータウンを望む

た ま 多摩ニュータウン

はちおうじし とうなんが ひろ じんこうやく まんにん れいわ ねんげんざい たま たまきゅうりょう
八王子市の東南部に広がる人口約21万人(令和6年現在)の多摩ニュータウン。多摩丘陵の
やま ひろ しょうわ ねんだいころ しぜん おお ぼしよ とうきょう
山なみが広がるこのエリアは、昭和30年代頃はとても自然の多い場所でした。そのころ、東京
は人の数が増えており、その人たちが住む場所を作ることが必要となっていました。

ひと す ぼしよ けいかくてき つく ひと たま かいはつ はじ しぜんゆた
人が住む場所を計画的に作っていくために、多摩ニュータウンの開発が始まりました。自然豊
かな場所から、今の多摩ニュータウンにどのように発展したのでしょうか。また、多摩ニュー
タウン西部地区の中心とされた南大沢はどんな街なのでしょう。

多摩ニュータウンの始まり

由木地区は昭和30年代後半まで東京郊外の農村地域でした。そのころ、日本は高度経済成長期と呼ばれ、特に東京は人口が増え、人々の住む住宅不足が課題となっていました。

住む場所を増やすため、この地域で計画性のない開発が進みました。このような計画性のない開発を防ぎ、誰でも安心して住める場所を作るため、昭和40年(1965年)に多摩ニュータウン計画が決まりました。

現在、多摩ニュータウンは東京都八王子市、多摩市、町田市、稲城市にまたがり、人口約21万人、その総面積は約2880haとなっています。また、複数の自治体に分かれているため、その地域ごとの特色があります。

由木村について

多摩ニュータウンのエリアからは数多くの遺跡が見つかっており、大昔から人が住んでいたことが分かっています。江戸時代にはこの辺りは由木領(柚木領)と呼ばれました。明治22年(1889年)には神奈川県南多摩郡由木村となり、その後、明治26年(1893年)には東京府(現在の東京都)南多摩郡由木村になりました。そして、昭和39年(1964年)、由木村は八王子市に編入し、村ではなくなりました。

多摩ニュータウン西の中心「南大沢」

昭和63年(1988年)に京王相模原線が多摩センター駅から南大沢まで延びました。多摩ニュータウンの計画では南大沢付近は多摩ニュータウンの西部地区の中心とされており、京王相模原線が延びたことにより南大沢地区の開発が進みました。

南大沢駅の周辺には都立大学や公共施設、大型商業施設が集まり、多摩ニュータウンの西部地区の中心として今に至ります。

南大沢と北大沢

なぜ、南大沢には「南」がつくのでしょうか。「南大沢」があるなら、「北大沢」があっても良いのでは?と思いませんか。

明治11年(1878年)にこの周辺が南多摩郡となった際、大沢村が二つありました。それを区別するために南大沢村、北大沢村が誕生しました。その後、昭和31年(1956年)に北大沢はその地域の昔の村の名前をとって、加住町となりました。

その結果、南大沢の地名だけが残ったのです。他にもこの八王子周辺には似たような事例があります。

多摩ニュータウンの街並みの特色

多摩ニュータウンの道路は歩行者専用と自動車専用に分かれて作られており、多摩丘陵の地形に合わせて歩道橋を設置するなど立体的に作られています。

また、小山内裏公園や長池公園のような大規模な公園や緑地も整備され、それに歩行者専用道がつながるようになっています。

その結果、高層住宅と公園や緑が両方見られるなど、独自の街並みがみられます。

また、南大沢には八王子市の指定天然記念物であるオオツクバネガシの木や、大塚には同じく指定天然記念物の銀杏の木もあり、自然も街の中で保護されています。



高層住宅のある街並みにとけこむ小山内裏公園

(所在地: 町田市小山ヶ丘、八王子市の南大沢、鎌水にまたがっています)



緑あふれる長池公園と長池見附橋

(所在地: 別所)



南大沢のオオツクバネガシ

(八王子市指定天然記念物)

(所在地: 南大沢)

しら 調べてみましょう

ひとつのテーマについて調べる時、何冊かの本を調べることは、とても大切なことです。次にあげる参考文献は、図書館にある本の中で、小・中学生のみなさんにもわかりやすいものです。自分で調べ、まとめてみましょう。市内のどの図書館に所蔵しているかは館内OPACで検索、または職員へおたずねください。

※☆印のついているものは、特に小学生におすすめのものです。

☆『多摩東京移管130周年記念 多摩市町村のあゆみ』

公益財団法人東京自治会館/編 2023年

多摩全体について歴史をはじめ広く解説しています。

☆『八王子事典』 八王子事典の会/編 2001年

事典として便利な本です。

☆『やとのいえ』 八尾慶次/著 2020年

多摩ニュータウンの変わりゆく風景が絵本になっています。

『新八王子市史通史編6(近現代下)』 八王子市史編集委員会/編 2017年

多摩ニュータウン由木地区の歴史が書かれています。

『新八王子市史資料編5(近現代1)』 八王子市史編集委員会/編 2012年

多摩ニュータウン由木地区の資料があります。

『新八王子市史資料編6(近現代2)』 八王子市史編集委員会/編 2014年

多摩ニュータウン由木地区の資料があります。

『新八王子市史自然編』 八王子市史編集委員会/編 2014年

多摩ニュータウンの自然の資料があります。

『八王子市東部地域 由木の民俗』 八王子市史編集専門部会民俗部会/編 2013年

多摩ニュータウンエリアの昔の生活、風習が書かれています。

『続八王子の民俗』 佐藤広/著 2024年

南大沢出身の方の記録です。

『はちとぴNo.59号 特集多摩ニュータウン』 揺籃社 2025年

多摩ニュータウンについてわかりやすく書かれています。

『角川日本地名大辞典13』 角川日本地名大辞典編纂委員会/編

地名の由来について書かれています。